



編集後記

編集顧問	小川秋實	秋元成太	村井 勝
	郡健二郎	藤岡知昭	
編集委員	大家基嗣	近藤幸尋	小島祥敬

非常に長いゴールデンウィークを皆様はいかに過ごされたでしょうか。今年の5月で新元号となりましたが、平成は小職の人生においては泌尿器科と真ん中の30年間でした。

平成の最初には、結石治療が大きく変わり、硬性の尿管鏡が使われたり、PNLが行われ始めました。また、ドルニエ社によるESWLにおけるプラグ式の開発を皮切りに、メンプレン式が開発され、その後fTULなどの進化もあり、結石治療は平成の間に低侵襲化がなされたと思います。

癌の診断および治療に関しても、多くの進化を遂げました。腎癌の手術、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬などでも大きな変化がありましたが、小職にとって大きな変化は前立腺癌でした。平成の最初においては、前立腺癌自体がメジャーな癌ではなく、また診療する機会があってもD2の状態が主でした。そのなかで、治療は除精術に加えて、酢酸クロルマジノンの経口投与が行われていました。診断に関しても、生検針はオートマチックではなく、まず内刃を刺してからその後外刃を被せるタイプのもので、現状よりはるかに太く、直腸診で硬いところを刺すようなものでした。腫瘍マーカーは、酸性ホスファターゼや前立腺

性酸性ホスファターゼを用いていましたが、PSAの登場でそれらは駆逐されました。PSAおよび超音波診断に加えてMRIの進歩により、早期前立腺癌の診断がなされるようになりました。

限局性前立腺癌の診断が多くなされると、それに伴って前立腺全摘除術が行われるようになりました。これも当初はDVCからの出血のコントロールが課題で血まみれの手術でしたが、平成12年頃より腹腔鏡下前立腺全摘除術が行われるようになり出血量は激減しました。本手術は膀胱尿道吻合の確立までには時間を要しましたが、出血のコントロールに関しては腎部分切除術に比べてはるかに精神的負担の少ない手術となりました。さらに、それがロボット支援下の手術に取って代わり、患者および手術者の負担も軽減された手術に進化を遂げました。唯一病院にとっては負担の大きな機械ですので、次世代の国産のロボットに期待したいと思います。

このように平成時代は、泌尿器科診療が大きく変化しましたが、皆様は次世代にどんな思いを抱いているのでしょうか。小職は、「教室運営や診療などすべてにおいて問題ないように」とささやかながら願っております。

(近藤幸尋)

臨床泌尿器科 (第73巻 第6号) (通巻873号)
2019年5月20日発行 (毎月1回20日発行)

定価：本体2,800円＋税

2019年年間購読料 (増刊号を含む13冊, 送料小社負担)
冊子版 39,840円＋税
電子版 (個人) 39,840円＋税
冊子＋電子版 (個人) 44,840円＋税

発行 株式会社 医学書院
代表者 金原 俊

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5724
(担当：金子・今田)

販売部直通 (03) 3817-5659

E-mail: rinpi@igaku-shoin.co.jp

振替口座 東京 00170-9-96693番

印刷所 ㈱双文社印刷 電話 (03) 3973-6271

広告申込所 ㈱文京メディカル 電話 (03) 3817-8036

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2019. Printed in Japan.

・ 本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・貸与権・公衆送信権 (送信可能化権を含む) は株式会社医学書院が保有します。

・ 本誌を無断で複製する行為 (複写, スキャン, デジタルデータ化など) は, 「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学, 病院, 診療所, 企業などにおいて, 業務上使用する目的 (診療, 研究活動を含む) で上記の行為を行うことは, その使用範囲が内部的であっても, 私的使用には該当せず, 違法です。また私的使用に該当する場合であっても, 代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

・ **JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は, そのつど事前に, 出版者著作権管理機構 (電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。

* 「臨床泌尿器科」は株式会社医学書院の登録商標です。